

October 5, 2020

【前日の為替概況】ドル円、反落 米大統領のコロナ感染でリスク・オフの円買いも下値は堅い

2日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落したものの、下値は堅かった。終値は105.29円と前営業日NY終値(105.53円)と比べて24銭程度のドル安水準。アジア市場ではトランプ米大統領の新型コロナウイルス感染報道を受けてリスク・オフの円買いが強まり一時104.94円まで下落したものの、海外市場に入るとじり高の展開となった。「トランプ大統領の症状は軽度」と伝わったほか、米与野党が追加経済政策の協議を続けており、「近く何らかの合意があり得る」との観測が強まったことが背景。一時は430ドル超急落した現物のダウ平均がプラス圏を回復するとドル円にも買い戻しが入り105.39円付近まで下値を切り上げた。ペンス米副大統領やムニューシン米財務長官、バイデン米民主党大統領候補の新型コロナウイルス検査が陰性だったことも投資家心理の改善につながった。

なお、ペロシ米下院議長(米民主党)は「米景気対策について協議を続ける」「景気対策について成し遂げられる」「空運業界への支援策は合意に近い」などと述べ、合意に楽観的な見方を示した。

米労働省がこの日発表した9月米雇用統計では、非農業部門雇用者数は前月比66.1万人増と予想の85.0万人増を下回った一方、失業率は7.9%と予想の8.2%より強い数字となったが、市場ではトランプ大統領の容態や追加経済政策を巡る米与野党協議に注目が集まっていたため、目立った反応は見られなかった。

ユーロドルは反落。終値は1.1716ドルと前営業日NY終値(1.1748ドル)と比べて0.0032ドル程度のユーロ安水準だった。アジア市場ではリスク・オフの動きから一時1.1696ドルまで売られる場面があったものの、NY市場では方向感に乏しい展開だった。9月米雇用統計を通過したほか、トランプ大統領の新型コロナウイルス感染が軽度の症状と判明したことで、市場の注目は明日3日のフォンデアライエン欧州委員長とジョンソン英首相の会談に移った。「英国とEUの将来関係を巡る最終協議では大きな進展が得られなかったものの、明日のトップ会談で行き詰まりを打開できるかが焦点」との指摘があった。

ユーロ円も反落。終値は123.39円と前営業日NY終値(123.97円)と比べて58銭程度のユーロ安水準だった。アジア市場では一時123.03円まで下落したものの、海外市場ではドル円の持ち直しにつれた円売り・ユーロ買いが出て123.54円付近まで下げ渋った。

【本日の東京為替見通し】ドル円は売り場探し？米政権の機能不全リスクへの備え必要か

本日のドル円は売り場探しとなるか。2日の金曜日はアジア時間でトランプ米大統領が新型コロナウイルスの検査で陽性となり、安全資産とされる円が買われた。欧米市場では週末だったことで、米大統領の病状進展や政権内を含めどこまで感染が拡大しているかを見極めるまで動きにくく、金融市場の反応は鈍かった。ただし、NYクローズ後に米大統領がワシントン近郊のウォルター・リード軍医療センターに入院し、一部ではこの48時間が病状の進展を計るのに一番重要と報じられている。また、複数(現時点で3名)の共和党上院議員が陽性と判明し、政権内部や大統領と近いものの感染も判明していることで、先週末の場中に流れていた情報よりも、米国の政治リスクが高まっている。

懸念されるのは、ほぼすべての共和党上院議員が毎週3回ランチミーティングを行っていたが、その参加者がすでに陽性が判明していることで、共和党上院議員(共和党53名)の感染者が拡大する可能性が高まっていることが一つ。もう一つは、9月26日にホワイトハウス内のローズガーデンで催した最高裁判事を指名する式典参加者で多くの陽性者が判明していることで、感染が上院議員以外にも多くの政府関係者に更に増加する懸念があることだ。もし、感染拡大が想像を超える状況になった場合は、米国の政治が一時的に大きく停滞し、機能不全に陥るリスクもあるだろう。

また、ペンス米副大統領は週末の検査で陰性と判明したが、もし仮に正副大統領が罹患し、両者ともに職務を行うことが不可能になった場合は、副大統領(=上院議長)に続いての大統領継承者は下院議長を務めるペロシ議長(民主党)になることで、米国の政局はより大混乱に陥るリスクも念頭に置いておきたい。このような状況を考慮すると、現時点で円相場は落ち着いているが、大きなリスク要因があることで、円買いトレンドへの備えを意識した相場展開になるかもしれない。

参考として、米大統領の感染を3月27日にウイルス検査で陽性と判明したジョンソン英首相とを比較してみたい。英首相の入院は陽性判明から9日目の4月5日になった。米大統領は英首相よりも18歳年上で高齢ということもあり、すでに感染判明後の朝には入院した。英首相は陽性判明10日目の4月6日

に集中治療室で酸素を吸引し、退院は陽性判明 16 日目の 4 月 12 日までかかっている。米大統領に同様の期間が必要になると、退院は第 2 回目大統領候補討論会（10 月 15 日）より後の 10 月 17 日目まで時間を要することになる。この間に大統領がどこまで職務を遂行できるのかは不明で、政権運営が様々な面で困難になりそうだ。当然ながら大統領選（11 月 3 日）を前にした遊説などもその隔離期間には行えない。

ドル円以外の通貨では欧州通貨の動きに注目したい。現地時間 3 日午後に行われたジョンソン英首相とフォンデアライエン欧州委員長の会談では、今週も協議が継続されることが両者で合意した。バルニエ英 EU 離脱・欧州委員会首席交渉官は今週ロンドンに赴き、フロスト英・欧州連合（EU）担当交渉官と再交渉が行う。そして、その翌週再びブリュッセルで交渉の審議が行われることになっている。交渉が今週も行われることはポンドにとってはポジティブな材料になる反面、今回の首脳会談について「非常に大きな溝が残る」（インディペンデンス紙）、「ゲームチェンジャーにはならなかった」（ガーディアン紙）などと英紙の報道は厳しい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○15:40 ◎ 黒田東彦日銀総裁、あいさつ（全国証券大会）

<海外>

○16:00 ◎ 9 月トルコ消費者物価指数（CPI、予想：前月比 1.30%／前年比 12.15%）

○16:50 ◎ 9 月仏サービス部門購買担当者景気指数（PMI）改定値（予想：47.5）

○16:55 ◎ 9 月独サービス部門 PMI 改定値（予想：49.1）

○17:00 ◎ 9 月ユーロ圏サービス部門 PMI 改定値（予想：47.6）

○17:30 ◎ 9 月英サービス部門 PMI 改定値（予想：55.1）

○18:00 ◎ 8 月ユーロ圏小売売上高（予想：前月比 2.5%／前年比 2.2%）

○22:45 ◎ 9 月米サービス部門 PMI 改定値（予想：54.6）

○22:45 ◎ 9 月米総合 PMI 改定値

○23:00 ☆ 9 月米サプライマネジメント協会（ISM）非製造業指数（予想：56.3）

○23:45 ◎ エバンズ米シカゴ連銀総裁、講演

○6 日 04:15 ◎ ボスティック米アトランタ連銀総裁、講演

○豪州は 4 日から夏時間に移行済み

○豪州（労働者の日）、中国（国慶節・中秋節）、休場

6 日

○09:30 ◇ 8 月豪貿易収支

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

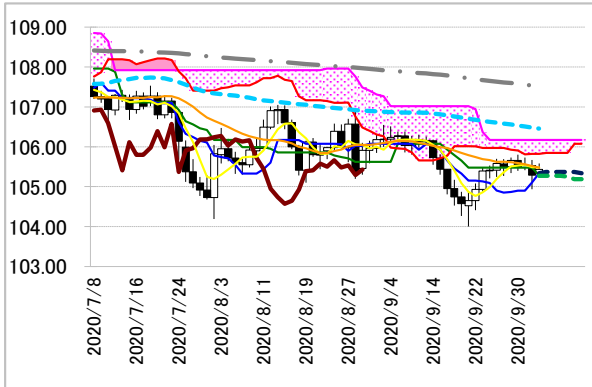
※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

- 2日 07:16 米共和党のマコネル上院院内総務
「さらなる刺激策を支持するが、規模を縮小するべき」
「ペロシ米下院議長とムニューシン米財務長官が合意すれば、検討する」
- 2日 07:32 ペロシ米下院議長(米民主党)
「経済対策案が今夜合意するとは予想していない」
「ムニューシン米財務長官の案を再考する」
- 2日 22:34
「米景気対策について協議を続ける」
- 2日 08:18 ミシェル欧州理事会常任議長(EU 大統領)
「2日にベラルーシに対して制裁を科す予定」
「トルコとさらに前向きな計画を行う準備がある」
- 2日 08:27 フォンデアライエン欧州委員長
「トルコはEU(欧州連合)との強固な協力関係により利益を得ることができる」
「トルコが単独行動を回避することを期待。そうでなければ、あらゆる手段を講じる」
- 2日 09:07 駐米中国大使
「米中、2国関係を正しい軌道に乗せるため直ぐに行動すべき」
「中国は友好と誠実さをもって米関係を発展させることに前向き」
- 2日 10:54 トランプ米大統領
「全ての白人至上主義者とプライド・ボーイズを非難する」
「ヒックス氏が新型コロナウイルスに感染した」
「私と妻も新型コロナウイルスの検査を受けた」
「自主隔離を開始する」
「私と妻が新型コロナウイルスで陽性だった」
- 2日 14:11 トランプ米大統領の主治医
「トランプ米大統領と夫人の健康状態は良い」
- 2日 16:53 英ジェンリック住宅長官
「明日のジョンソン英首相とフォンデアライエン欧州委員の会談が何を意味するのかを言うのは早すぎる」
「残り時間があまりないなかでブレグジットでやるのがたくさんある」
「解決すべき非常に重要な問題がまだいくつかある」
- 2日 17:46 EU関係者
「次のEUサミット(15-16日)の前に英国とEUは更に通商協議を行う」
- 2日 19:31 デギンドス欧州中央銀行(ECB)副総裁
「2021年に回復するまで、今年の残りはユーロ圏のインフレはマイナスで推移」
「エネルギー、需要、ドイツの付加価値税のために価格が下落している」
- 2日 22:07 ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁
「パンデミックで失った多くの雇用は戻らないだろう」
「長期間の2%未満の後、2%を超えるインフレの期間を受け入れる」
- 2日 23:24 ムニューシン米財務長官
「米国経済は再開するにつれて、非常に強い四半期になる」
「経済にはさらに支援が必要」
「米国経済には再開が非常に困難な部分はまだある」
「学校や育児、航空会社、中小企業支援のため景気対策法案を巡る協議をすすめる」
- 2日 23:34 バルニエ EU 離脱首席交渉官
「英国との通商協議に進展ない」
- 2日 23:52 メドウズ米大統領首席補佐官
「トランプ大統領は迅速な回復を遂げると楽観している」
「トランプ大統領は新型コロナウイルス感染で軽度の症状」
- 3日 01:00 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長
「景気刺激策についてムニューシン米財務長官とペロシ米下院議長は本日協議する予定」
- 3日 01:42 カプラン米ダラス連銀総裁
「2%を若干超えるインフレは2.25%を意味する。2.5%や3%ではない」

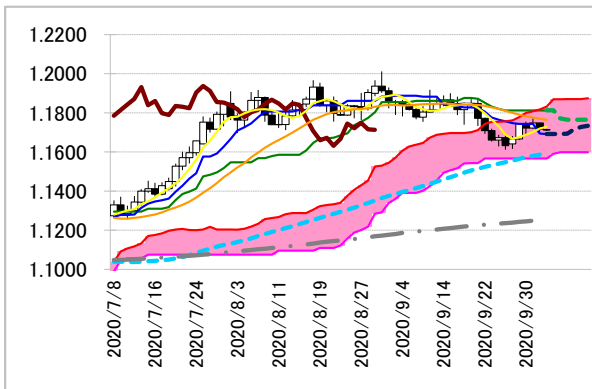
※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕



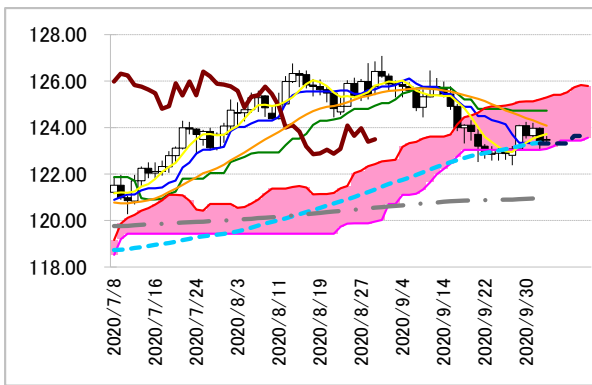
＜ドル円＝転換線が基準線を上回り買い示唆も見通しさえず＞
下影小陰線引け。一目均衡表・転換線は 105.34 円と、基準線 105.28 円を上回り買い示唆となった。
しかし、両線は交差後しばらく横ばいで推移してから水準を切り下げる公算。先行きの重さを示している。さえない見込みを払しょくする上振れがなければ、次第に下向きのリスクを強めるとみる。

レジスタンス 2 106.46(90日移動平均線)
レジスタンス 1 106.03(ピボット・レジスタンス 2)
前日終値 105.29
サポート 1 104.94(10/2 安値)



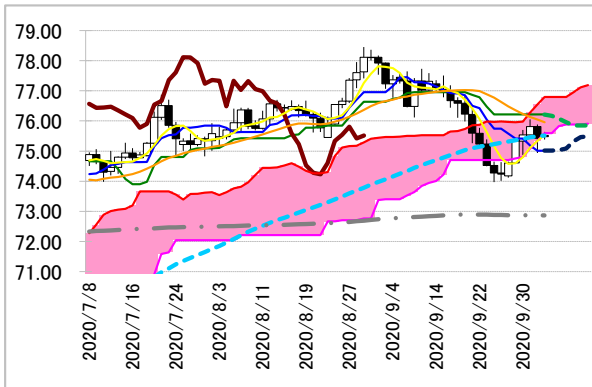
＜ユーロドル＝底打ちする転換線とともに基準線を試すか＞
下影小陰線引け。目先のすう勢を示す 5 日移動平均線の切り上がりをとめない一目均衡表・転換線を上回り、1.17 ドル台を回復して週の取引を終えた。1.1691 ドルへ小幅に低下した転換線へ追随して下押す可能性は視野に入れておきたい。だが、現水準で底打ちする同線とともにやがて水準を回復し、低下傾向の一目・基準線を試す展開が予想できる。

レジスタンス 1 1.1770(10/1 高値)
前日終値 1.1716
サポート 1 1.1661(9/29 安値)



＜ユーロ円＝雲の下限付近で下値を切り上げる展開想定＞
下影陰線引け。124 円台で低下中の 21 日移動平均線を抵抗に下値を探る展開となり、123 円台に位置する 90 日線を試す展開となっている。90 日線を割り込みつつあるが、同線のやや下 123.32 円に位置する一目均衡表・転換線が上昇傾向を維持しており支えとなりそう。現在 123.08 円に位置する一目・雲の下限前後で下値を切り上げる流れを想定する。

レジスタンス 1 124.08(21日移動平均線)
前日終値 123.39
サポート 1 122.95(ピボット・サポート 1)



＜豪ドル円＝一目・雲の下限の上昇への追随を予想＞
下影陰線引け。上昇傾向の一目均衡表・雲の下限 75.60 円付近の攻防で、同水準を割り込みつつある。しかし、やや下の 75.52 円前後で上昇中の 90 日移動平均線付近を下回る水準では底堅く、一目・転換線 75.02 円前後で折り返す動き。90 日線や転換線をサポートに一目・雲の下限の上昇へ追随し、現水準 76.22 円から低下する見込みの一目・基準線を試す展開を期待する。

レジスタンス 1 76.06(10/1 高値)
前日終値 75.42
サポート 1 75.02(日足一目均衡表・転換線)

